



若者が夢を抱き活躍でききる社会？

今年、YouTubeを見るようになった私の密かな楽しみは藤井聡汰棋士の活躍でした。

AI(人工知能)が示す最善手をなぞるように打っていく姿にただ驚嘆するばかりです。19歳の若者が一回りも年の差のある大人を相手に勝ち続ける姿に、「がんばれ」の声援を送りたくくなります。

もう一人は、二刀流でメジャーリーグを席卷した大谷翔平選手です。ご存じのように受賞ラッシュが続いています。高校生の頃に描いた「目標達成シート(マンダラチャート)」が話題です。夢の実現に向けた目標の数々が記されています。もちろん恵まれた体ということもあるのでしょうが、その目標に向かって取り組んだ努力に脱帽です。

10年前にこのような夢を持った若者がいたという一方で、昨年の中高生の自殺者は415名でした。この後ろにどれだけ多くの若者の絶望が

あるのでしよう。高度成長期に子供時代を過ごした私には想像もできない数字です。私たちの日本社会は子供の生きる希望さえも奪う社会になってしまったようです。

また、電車内で刺傷事件が続きました。こうした無差別犯罪が起こるたびに「貧困」と「社会関係の欠如」が話題になります。私たちはどんな社会を理想と考えて進んでいるのでしょうか。

その国の形が問われたのが先の総選挙です。残念ながら投票率は56%と相変わらずの低さでした。多くの国民が政治に関心を示していないという事です。夢や希望を国や社会に期待していないという事の表れのような気がします。

論語にある「由らしむべし、これを知らしむべからず」を「黙って政治に従わせ、政治の内容を知らせるべきものではない」という解釈が一般的

なようです。しかし、正しくは「政治に対する信頼をかちうることはできるが、政治の内容を知らせることはむずかしい」という意味なのだそう

です。その点で言うなら、主権者として関心をもってもらえないほど、言論の府であるべき国会で、国民が納得のゆく説明がないということ

です。協同組合は一人一票という民主主義社会のルールで運営されている組織です。日本社会にも、さいたま高齢協の運営にも関心をもって頂けるように、伝える努力を怠らないようにしていきます。

コロナの感染者が減ってきています。しかし、インフルエンザは増えるという想定です。注意を怠らず元気でお過ごしください。

寅年の来年が飛躍の年になりますように！

理事長 坂林哲雄

高齢協って何？ 高知高齢協の取組み

元気な高齢者がもつと元気に！ 生活困窮者事業にも挑戦

高知県高齢者福祉生活協同組合

専務理事 曾我懐愛さん

高知高齢協は、1997年5%が高知市に集中しており、11月に「高知高齢者協同組合」として設立され、1999年7月に生協法人の認可を受けて現在の「高知県高齢者福祉生活協同組合」として活動を開始しました。

【宅老所事業】

高知高齢協の事業で全国的に珍しいものに「宅老所」があります。事業としては、配食（高知市1ヶ所、安芸市1ヶ所）、ヘルパー・ステーション1ヶ所（高知市）、地域密着型デイサービス（高知市1ヶ所）、居宅介護支援（高知市1ヶ所）、宅老所（高知市2ヶ所）、共同住宅兼シェルター（高知市1ヶ所）を運営しています。組合員数は2040人（2021年8月末現在）で、地域では7つの支部を中心に活動しています。組合員の6

間を過ごすことができます。

現在では「しぼてんハウス」と同様の施設が市内の22ヶ所に開設され、高知市の福祉行政にも一定の貢献ができたのではないかと思います。

援法に基づいた「高知市一時生活支援事業」（通称シェルター事業）の協定を結び、社会的な課題である生活困窮者の自立支援に向けた取り組みが開始されました。

宅老所事業の始まりは、当時の曾我秀秋専務（現理事長）が高知市の福祉担当職員との話し合いの中で「2000年から始まる介護保険制度とは別に、高齢者が家に閉じこもらず元気に地域の中に出ていくことで介護予防を進めていくような仕組みづくりが必要ではないか」と持ち掛けたことから生まれました。

その後「新屋敷しぼてんハウス」が1999年5月に高知市で初めてとなる宅老所として開所し、2014年4月には2つめの「デイホームゆったり」も始めました。

「しぼてん」は高知県の伝説に登場する、カッパに似た子どもの妖怪で、相撲を取るのが大好き。お座敷用の「しぼてん音頭」も作られるなど、高知県民にはおなじみのキャラクターです。

別子、高齢者が家に閉じこもらず元気に地域の中に出ていくことで介護予防を進めていくような仕組みづくりが必要ではないか」と持ち掛けたことから生まれました。

その後「新屋敷しぼてんハウス」が1999年5月に高知市で初めてとなる宅老所として開所し、2014年4月には2つめの「デイホームゆったり」も始めました。

この住宅は「あじ菜ハウス」と名付けられ、住居を失った生活保護受給者（介護サービス利用者）の女性や、配食利用者（障害者男性）が入居しました。（現在では兩名とも退居）これまでの事業では対応できなかったニーズに応えることもできるようになりました。

市1ヶ所、安芸市1ヶ所）、ヘルパー・ステーション1ヶ所（高知市）、地域密着型デイサービス（高知市1ヶ所）、居宅介護支援（高知市1ヶ所）、宅老所（高知市2ヶ所）、共同住宅兼シェルター（高知市1ヶ所）を運営しています。組合員数は2040人（2021年8月末現在）で、地域では7つの支部を中心に活動しています。組合員の6

宅老所は高知市からの委託で行われ、民家や老人福祉センターなどを活用し、利用される方々がなごやかに思い思いの一日を過ごす介護予防のための通所事業です。

介護保険のそれとは異なり、少人数で家庭的な雰囲気の中で、地域の高齢者が自分の足で好きな時間に訪れ、体操をしたりお昼ご飯を食べたり、麻雀をしたり、和気あいあいとした時

開始から現在までの5年間に様々な方々が「あじ菜ハウス」に入居しました。入居者の中には33歳という若い男性で、生まれは高知市ですが高校卒業後大阪で就職し、その後ホームレスとなり、紆余曲折の末入居した方がいます。その方は大人になって初め

市1ヶ所、安芸市1ヶ所）、ヘルパー・ステーション1ヶ所（高知市）、地域密着型デイサービス（高知市1ヶ所）、居宅介護支援（高知市1ヶ所）、宅老所（高知市2ヶ所）、共同住宅兼シェルター（高知市1ヶ所）を運営しています。組合員数は2040人（2021年8月末現在）で、地域では7つの支部を中心に活動しています。組合員の6

宅老所は高知市からの委託で行われ、民家や老人福祉センターなどを活用し、利用される方々がなごやかに思い思いの一日を過ごす介護予防のための通所事業です。

介護保険のそれとは異なり、少人数で家庭的な雰囲気の中で、地域の高齢者が自分の足で好きな時間に訪れ、体操をしたりお昼ご飯を食べたり、麻雀をしたり、和気あいあいとした時

開始から現在までの5年間に様々な方々が「あじ菜ハウス」に入居しました。入居者の中には33歳という若い男性で、生まれは高知市ですが高校卒業後大阪で就職し、その後ホームレスとなり、紆余曲折の末入居した方がいます。その方は大人になって初め

その後同年10月には高知市との間で生活困窮者自立支

を知りました。



写真の建物の1階が「配食センターあじ彩」、2階が居住スペースで5部屋を確保。隣には「訪問介護事業所」や組合員の集い処があり、「こども食堂」や地域に向けた「イベント」なども行っている。

シエルターの退居が近く中であじ菜の仕事に興味を持ち、無言でじっと見ている内に「あじ菜」管理者が声をかけ、配達を手伝うようになりました。

おしゃべり好きな彼は職場の仲間から「やかましい」と怒られることもあります

が、仕事はとて真面目でした。

あじ菜管理者からは、

①言葉が早口で聞き取り

にくいのでゆっくり話す

②お弁当は手渡しで相手に渡す

に渡す

③しっかりと挨拶をする

の3点のアドバイスを受

けました。

あじ菜横の施設で月に一

度行われている子ども食堂

に参加するなど、仕事を始めて彼自身にもいきいきした

表情が戻ってきました。

現在はシエルターを退居、

あじ菜も退職しましたが、

時々あじ菜を訪れ、「今は福祉施設で働いている」ことなどを話しています。

【高知高齢協の今後】

高知高齢協は来年設立25周年を迎えます。5ヶ年のロードマップづくりに向けた中期計画作成委員会を立ち上げ、組織の維持発展に向けて話し合いを進めています。

新型コロナなどで組合員の生活が一変している中で、さいたま高齢協はじめ全国の仲間の皆さんの活動に学びながら、頑張っていきたいと思えます。



政権交代で高齢者介護の充実を 介護現場から、7団体の要請 期待する理由が野党共闘に

少子超高齢社会がピークを迎える2025年までの4年間は、このたびの衆議院議員選挙で選ばれた議員任期に重なります。私たち7団体は山積する超高齢社会の課題にともに向き合う政権を誕生させられるか、これまでのように「まずは自助」と言ってはばからない政権のままなのか、分かれ目になる重要な選挙になると考えております。立憲野党はこの選挙の政策に、ぜひとも介護の問題を取り入れ、命を守る政権を目指していただきたいと心から願います。

8月27日、私たちは「介護に光を！ 7団体による政党懇談会」を開催し、立憲民主党、日本共産党、国民民主党、社会民主党、れいわ新選組の

- 議員の皆さん（予定候補者、議員秘書含む。自公、維新は声をかけたが参加されず）と懇談しました。そのとき提出した要望項目は以下の通りです。
- ①安心して介護サービスを提供できるよう新型コロナウイルス感染症対策を強化すること
 - ②介護保険料・利用料負担の軽減やサービスの拡充など介護保険制度の抜本的な改善を行うこと
 - ③すべての介護従事者の給与を全産業平均水準まで引き上げること。その財源は全額公費負担でまかなうこと
 - ④介護保険財政における国庫負担割合を大幅に引き上げる

どれも待ったなしの課題です。現政権は、「高齢者ばかりに支援が偏在」と介護保険制度を攻撃し、世代間対立を煽り、「全世代型社会保障」を掲げて、あたかもすべての人々に社会保障がいきわたるかのような幻想をふりまします。けれども、介護保険前の老人福祉サービスにかかる国負担は2・3兆円でしたが、現在介護保険に国が支出している額は3・2兆円にすぎません。1・3兆円になる介護保険財政の4分の1だけの負担なので、そして介護保険財政を赤字にした地方自治体は全国でも数か所にすぎないのです。にもかかわらず、「制度の持続可能性」を理由に、介護保険料や利用料負担を増やし、サービス利用を抑制してきました。「全世代型社会保障」でも同じことをするに違いありません。

禍でいっそう広がりました。自衛を求められてマジメに従ってきた高齢者は孤立を深め、身体機能、認知機能の低下を招いています。コロナ禍で大きく開いた傷口を致命傷にしないためには、政治を、政権を変えることしかない。私たちは確信しています。高齢化率が3割近く、その半数以上が75才である日本社会は、支援を求める人々が「少数者」ではない社会です。介護サービスを細らせば現役世代や子どもにも大きな影響を及ぼすことは、介護職やヤングケアラーの増加が示しています。まさに「全世代」にダメージを与えます。

介護サービスの現場は、介護保険スタート以来21年間、改善の一途をたどった制度のもとの厳しい状況に置かれてきました。そこにコロナ禍です。慢性的な職員不足、低い報酬が原因の経営難など、ギリギリの運営を強いられてきました。たからたまりません。感染が出た場合は休止、予防のために、体力がない中小の介護サービス事業所の倒産閉鎖を招き、現場の職員は長引く感染蔓延に疲れ果てています。ただでも人手不足の中、介護施設でのコロナ感染者は医療機関への搬送もできない中で必死の看病を行った施設の職員は「地獄のような日々だった」と言います。介護施設のPCR検査が始まったのは第三波が終わった今年冬ころからで、ワクチン接種は施設職員はその後優先されました。けれども在宅介護従事者には公的な検査もなく、ワクチン接種は「感染者や濃厚接触者の介護を継続する」という条件が付き、多くは一般の人々と同じ時期の接種になっています。にもかかわらず、要介護利用者の接種支援は訪問介護に求めています。

介護保険の改善は高齢者の生活を直撃し、要介護高齢

者の生活を守れないほどになつています。比較的低額で入所できた特別養護老人ホームは、要介護3以上でなければ原則申し込みもできず、8月から介護施設の食費や室料の負担が上げられました。在宅介護は、訪問介護のヘルパーが減少の一途で、すでにケアプランどおりに訪問介護を入れることができないう状況が始まっています。

2021年9月21日

■公益社団法人認知症の人と家族の会

■21世紀老人福祉の向上をめざす施設連絡会

■保障関連法に反対する医療・介護・福祉の会

■守ろう！介護保険制度・市民の会

■全国労働組合総連合

■全日本民主医療機関連合会

■中央社会保障推進協議会

介護保険の現状は「在宅孤立死」の増加が心配な制度崩壊の崖っぷちです。私たちは、皆さんが望む最期を支えたい。立憲野党の皆さんは、これまでずっと介護保険の改善に反対を表明してこられました。今回の選挙で「公的介護の充実」を政策にかかげてたかっただけで、公的責任をないがしろにしてきた今の政権に任せておくことはできません。政権交代



半期経営報告：5年ぶりの黒字確保！

事業収入は、予算比で122%となり、デイサービスの収入があった昨年と比べてもその実績を超えています。営業損益も4期ぶりに6,369千円の黒字でした。

部門別にみると、休止中のデイサービスを除き、全部門で事業収入が予算比・前年比増となり、営業損益も全部門で黒字となっています。

コロナ禍の厳しい環境の中でしたが、現場で活動されるケアワーカーの皆さんの努力の賜物だと考えています。また、職員の皆さんの絶対に赤字を出さず経営を守り抜くという姿勢がこの結果に結んでいます。ここまでの取組を高く評価したいと思います。一方で、人手不足が深刻で、現場の負担が大きくなっています。また、労働条件の向上や報酬改定を進めることが喫緊の課題です。現場とよく話し合っただけで進めていくことにしています。

過去4年間(2017~2020)赤字続きという状況で、長い間ご心配をおかけしておりました。ようやく黒字を確保し、財務状況も改善していることをご報告させていただきます。下半期も堅実な事業経営に努めてまいります。

21年度半期						
	勘定科目	実績(A)	予算(B)	昨年(C)	A/B	A/C
ま あ ち	福祉関連事業	25,885	20,800	21,534	124.4%	120.2%
	事業原価	17,418	17,448	18,183	99.8%	95.8%
	【営業損益】	8,467	3,352	3,350	252.6%	252.7%
ケ ア プ	福祉関連事業	7,404	6,350	4,995	116.6%	148.2%
	事業原価	6,750	6,474	6,642	104.3%	101.6%
	【営業損益】	654	▲124	▲1,647		
デ イ 休	福祉関連事業	▲405	▲233	9,777	173.3%	
	事業原価	1,657	1,534	11,064	108.0%	15.0%
	【営業損益】	▲2,062	▲1,768	▲1,288	116.6%	160.1%
岩 槻	福祉関連事業	14,946	12,300	11,463	121.5%	130.4%
	事業原価	12,725	11,235	13,407	113.3%	94.9%
	【営業損益】	2,221	1,065	▲1,943	208.5%	
全 体	福祉関連事業	47,831	39,217	47,769	122.0%	100.1%
	事業原価	38,551	36,691	49,296	105.1%	78.2%
	【営業損益】	9,279	2,526	▲1,528	367.4%	
	本部管理費	2,910	2,741	3,722	106.2%	78.2%
	事業損益	6,369	▲216	▲5,249		

参考：大阪高齢協の生きがい活動

理事会で大阪高齢協の薄井専務理事から話を聞きました。「まちかどデイハウス」に取組む茨木市と枚方市の例が紹介されました。65歳以上の高齢者が介護予防を目的に通う場所です。食事の提供があり、介護予防や認知症予防、口腔ケアなどの相談や活動、そしてサークル活動も営まれています。高齢協の組合員がグループを作って自治体から委託されているそうです。自治体と連携した高齢協らしい活動の一つです。左はその通信に掲載された「サークル活動」の案内です。こんな活動がさいたま高齢協でも活発にできればと願っています。

【サークル(同好会)案内】

★ 赤枠は、本部会議室が会場です。

サークルへのお申込み・お問合せは、各連絡先へお問い合わせください。

短歌の会みおつくし
 ☎072-198-4167 松野久子
 11月5日(金)
 12月10日(金)
 13:00～15:30
 参加費500円
 まわりの気配に気づいて下さい。日常の暮らしのメロディが聴けます。

布草履同好会
 ☎06-6573-1815 茂井安則
 11月6日・20日(土)
 12月4日・18日(土)
 10:00～15:00
 参加費700円 材料費1,300円
 お気軽にどうぞ参加ください。

本部のところでしゃべろう会
 ☎06-6452-1188 ☎06-6452-1776
 11月9日(火)
 14:00～16:00
 参加費400円(お菓子代)
 当日12月14日(火)の大阪北地域懇話会に向け、地域組合員さんに「声掛け」を予定しています。

福島詩吟の会
 ☎06-6386-0795 後藤淳一
 11月10日・17日・24日(水)
 12月8日・15日(水)
 17:00～19:00 会場費200円
 どなたでも参加できます。
 和気調々と練習しています。

楽しい英会話
 ☎090-3500-1315 ☎06-6474-6501
 菅野正夫(講師:山崎鈴子)
 11月11日(木)
 12月9日(木)
 10:30～12:00
 参加費600円
 お気軽にどうぞ参加ください。

ヨガ体操教室
 ☎090-7551-6429 山下きよみ
 11月8日・22日(月)
 12月13日・27日(月)
 10:00～11:30
 【会場】市川市市民保健センター(理事室)
 参加費500円とお水をご持参ください。
 週に1回出来るゆったりとしたストレッチ体操を、皆で楽しむのが目的です。

男の料理教室
 ☎072-896-6501 ☎072-896-6502
 (受付:おへそエディション 磯山・植田)
 代表:田嶋 博美
 11月13日(土)10:00～14:00
 ツボ・ルビカから学ぶ1日限定講座
 参加費1,800円
 キューピー・鳥井ハコビ・フジワラ・ヤマザキ・東とカッパのスイーツなど
 【詳細はチラシを参照】

けんこうハイキング
 ☎06-6452-1160
 ☎06-6452-1776
 申込み受付:本部事務局
 代表:黒田 武雄
 ①11月20日(土)9:30～16:30
 京都市・東御街道歩きハイキング
 ②12月18日(土)9:30～15:30
 大東市・野崎観音城跡ハイキング
 【詳細はチラシを参照】

落語クラブ 百葉の会
 ☎072-828-1819 谷川 章基
 12月6日(月)12:30～
 【会場】梶原川「アルカスホール」
 メインホール→京阪本線「梶原川市駅」の東口から徒歩3分
 百葉の会「アルカス専席」

新入職員紹介

今年9月から入職させていただき、

3ヶ月になります。少しずつ職場になれ、業務を行っている毎日です。介護支援専門員の始まりは東京都での居宅支援が第一歩で、いろいろなことを勉強させていただきました。所沢でも利用者様のお力になれるよう頑張りたいと思っています。宜しくお願いいたします。

ケアプランまあち 平野ケアマネの入職で4名の体制になりました。現在市内の7つの包括支援センターと連携し、110人の高齢者の支援に努めています。



平野美枝子

Web サイト更新中!



さいたま高齢協のページを更新中です。ご意見を頂きながら、少しずつ更新していきます。質問・問合せのフォームがあります。様々なご意見を御寄せください。

地域サロン 所沢地域福祉事業所

まあち

お茶を呑みながら、おしゃべりをして一時を過ごしませんか!

老老世帯・単身世帯・日中は一人という暮らしが増えています。近所のつながりも希薄になっていきます。住み慣れた町で長く元気で暮らす為に、楽しく過ごせる集いの場をを立ち上げました。主に向陽町地域の方々にお声がけをしています。

(増田アツミ 坂井みよ)

●第2、第4木曜日13:30～15:30

●まあち「会議室」

●参加費は100円(お茶代)

*行事は別途で実費が必要です。

連絡先 まあち
04-2941-2111

さいたま高齢協の事業所

まあち 〒359-1103 所沢市向陽町 2001-3
訪問介護 04-2941-2755
ケアプラン 04-2941-2080

ふれあい岩槻 〒339-0057
さいたま市岩槻区本町 1-5-33
訪問介護 048-749-5773

働く仲間募集中

砂漠に井戸を掘り水路を造り続けた医師 **希望の一滴** “志を後世へ” 中村哲さん “写真展”を行います！



福岡県福岡市出身の脳神経内科を専門とする医師。ベシワール会の現地代表やピース・ジャパン・メディカル・サービスの総院長として、パキスタンやアフガニスタンで医療活動に従事。

2019年12月4日、アフガニスタンにて、武装勢力に銃撃され死去した。享年73才

期間 1月23日(日)~28日(金)
会場 所沢市役所 市民ギャラリー

アフガニスタンは旧ソ連が侵攻して以来40年以上の間戦火にまみれてきました。タリバン政権に変わる国づくりを目指したアメリカもついにこの夏完全撤退となり、アフガニスタンは旧タリバン政権が復権し、新たな局面を迎えています。

このアフガニスタンの事態が示しているのは、武力と経済力をもって、国づくりは勿論のこと、価値感を押し付けることはできない、ということです。人々の命と人権は譲れない人類の普遍的価値でしょう。しかし、それを実現するのは武力や経済力ではなく、対話であり、国際社会においては外交努力以外にはないということです。

かつては緑豊かだったアフガニスタンの人々の生活の復興に命を落とされた医師中村哲さんのことをご存じない方はいないと思います。日本の社会に生きる私たちの周りにも様々な困難を抱えながら生きる人たちがいます。中村さんの写真展を通じて、平和と命、自然という大切な価値に思いをはせて頂きたいと思っています

～ 中村哲さんの遺した「ことば」～

■絶対に必要なものは多くはない。恐らく、変わらずに輝き続けるのは、命への愛惜と自然に対する謙虚さである。その思いを留める限り、恐れるものは何もないと考えている。

■裏切られても裏切り返さない。誠実さこそが、人々の心に触れる。

■「一隅を照らす」という、なぜかこのことばにすがりたかったそして、もはやそれ以外に自分の生きざまも考えられなくなっていた。

■私たちにとっての「国際協力」とは、決して一方的に何かをしてあげるのではなく、人びとと「ともに生きる」ことであり、それをとおして人間と自らを問うものであります。

組合員募集

私たちが「仕事」「福祉」「生きがい」活動に取り組む高齢社会を支え合うために生まれた生活協同組合です。年齢に関係なく、気軽にどなたでも協同組合に入れます。老若男女が支え合う「福祉のまちづくり」にあなたもご一緒に！

【加入にあたって】
①所定の加入申込書
②出資金(一口千円)が必要ですが、お申込み・お問い合わせ04(2994)2111
年会費・月会費は不要です。

私たちの仲間になりませんか！

映画上映サークルをつくりませんか?
わたしのおすすめ映画

「アザーズ」

米・スペイン・仏 《出演》ニコール・キッドマン
平山清一さん(上尾・理事)

ホラー映画は数多くあり、自分と染み入る怖さを感じさせる分が10代の頃は丁度ホラー映画ブームで好んでこの手の傑作な映画である。

映画を観ていたことを思い出す。1970年代に世間を賑わせたエクソシストやローズマリーの赤ちゃん、オーメン等は恐怖映画の金字塔であり、上映されていた時期はもちろんのこと、現在でも映画が好きな人ならこれらの映画の作品名を知らない人はいないと思う。しかしこのアザーズはどちらかといえば地味な描写が多く、前記のエクソシスト等と異なりグロテスクなシーンは皆無なのか、あまり話題にはならなかった映画ではあった。しかし、内容は重々しく、客観的な驚きではなくじわじわ

ている。

屋敷には母と子、そして身の回りの世話を担う三人の高齢の使用人と生活をしている。子供たちは紫外線アレルギーの持病があり、日中は陽射しを回避する理由で厚い遮光カーテンを閉めていてランプの灯の下、生活していて、昼間でも屋敷の中はいつも薄暗い。

子供たちは不思議なことを口走るようになり、家には自分たち以外に全く知らない人たちが黙って出入りしている。たまに姿を見てしまうが気味の悪い不審者か亡霊ではないかと母に訴える。母は特別に対処することなく、ただ、カーテンを開けるな、戸外を見ろな、怪しい者に気がつかれないように、おとなしくしていなさいとだけ強く言い、子供たちをたしなめる。なぜだろう...



この映画はあらずじや映画の内容には一切、触れないこととしたい、ただアザーズとは OTHERS、和訳すると他の人、そう他人である、それだけは記したい。

この映画は一番恐ろしいのは亡霊や悪魔ではなく人間そのものだと言えてくる。

誰にとつて誰が他人なのか、悲しく切ない謎のストーリーは、驚愕のラストにいたって解き明かされる。観た者はきつと驚きと悲しさを感じてしまうだろう。

本当に余談であるがブルース・ウィリス主演の「シックス・センス」を観た時の驚きと似ているので、これ以上のネタバレは観てからの楽しみにして欲しい。

物悲しい雰囲気原因がはっきり究明されない状況が続く、全体に薄暗く、芸術的な屋敷内の家具や登場人物の服装など、映像美に凝った演出と背景での恐怖映画はゴシックホラーと言われているがアザーズはその典型作品といえるだろう。